

福祉の輪 広げたい



ホームページ

緑友会

検索



“松と富士山” 正月らしい縁起の良い風景。天気の良い日には大山から富士山を綺麗に見ることができます。大山阿夫利神社の御祭神は「大山祇大神（おおやまつみのおおかみ）」、その娘神が木花咲耶姫（このはなのさくやびめ）」で富士山本宮浅間大社の御祭神として祀られているため、大山と富士山は父娘の関係にあたり深く結ばれているとのこと。

第35号の内容

正月らしい風景

“松と富士山”	1
NEWS 1～9	2・3
ピックアップ 1～6	4～7
リレーコラム 私の気になる話題	8



大山寺の紅葉



大山からの富士山



霧氷の大山山頂

秋には見事な紅葉で彩られ、冬には積雪で真白い世界が広がります。

NEWS 1

評議員の選任と定時評議員会の開催！



佐伯 妙有 氏

評議員の任期満了に伴い、理事会で評議員選任の承認を得て、6月22日に開催した評議員選任・解任委員会において現評議員16名の再任が決議されました。そして、令和3年6月29日の定時評議員会において、2020年度事業報告及び決算の承認や山口静雄元清川村長の評議員会議長再任などが決定されました。また、7月に伊勢原市社会福祉協議会会長に就任された佐伯妙有氏に評議員にご就任いただきました。

NEWS 2

役員の改選！

令和2年度会計年度に関する定時評議員会終結時をもって任期満了となる役員の改選については、加藤竜太理事の退任に伴い新たな理事として推薦された清川ホーム施設長の菅原敦氏と再任された6名の理事及び監事2名の再任が定時評議員会で承認されました。

また、評議員会終了後に開催された理事会で岩崎尊之理事が理事長に再任されました。

菅原 敦 氏



NEWS 3

岩崎顧問と宮川評議員、ご逝去



岩崎 満江 氏



宮川 進 氏

長年、当法人の顧問をお務めいただき、岩崎尊之理事長のお母様でもある岩崎満江顧問と前伊勢原市社会福祉協議会会長で当法人の評議員の宮川進氏のご逝去されました。ご冥福をお祈り申し上げます。

NEWS 4

法人設立 40 周年記念誌を発行！



緑友会



みどり園

昨年3月に法人設立40周年を迎え、これまでの歩みや支援の今後のあり方などを議論した内容をまとめた記念誌を作成しました。

また、みどり園の創設40年の足跡をまとめた記念誌も発行しました。10年毎の節目を大切に、これからも努力してまいります。

NEWS 5

ホームページのリニューアル！

情報や活動を分かりやすく紹介するために各施設のホームページのリニューアルを行っています。清川ホーム・伊勢原ふたば保育園・本厚木ふたば保育園…順次リニューアルを行っています。是非、ご覧ください。



清川ホーム HP



本厚木ふたば保育園 HP

NEWS 6 支援の向上を目指して!

緑友会では、職員が自分の能力向上を目指して資格を取得する自主研修に対して、その取得費用の2分の1を補助しています。今年度は、この制度を利用して4名の職員が介護福祉士や社会福祉士の資格を取得しました。職員の向上心に感謝!



NEWS 7 コロナ禍の中で!



無病息災・安全祈願!

令和3年4月25日に東京・大阪などへの新型コロナウイルス感染症緊急事態宣言が発令されるなど、全国的な感染拡大が高まる中、4月26日、三ノ宮比々多神社の永井治子名誉宮司にお祓いをお願いし、各施設の利用者様や園児、職員の健康と安全を祈願しました。



みどり園納涼イベント



清川ホーム夏のお楽しみデイ

新型コロナウイルス感染症緊急事態宣言が発令され、昨年も7月の清川ホームの「サマーフェスティバル」・8月のみどり園の「納涼祭」は中止としましたが、利用者様に喜んでいただけるように趣向を凝らした納涼イベントを開催しました。今年は開催できますように!



コロナワクチンの接種



オンライン面会

新型コロナ感染症緊急事態宣言が発出され、当法人では利用者様と職員への優先接種によって、8月にはワクチン接種が完了しました。

9月に緊急事態の終了が宣言されましたが、第6波への不安や新たなオミクロン株への危機感の高まりなどから、まだまだ感染症防止対策の手を緩めずに頑張ります。

NEWS 8 病児保育事業の開始!



保育中に体調不良となった児童を保護者のお迎えまでの間、看護師が衛生的な場所で、安静を確保し緊急対応を行い、安全で安心できる保育の提供を行っています。

令和3年度から伊勢原ふたば保育園で病児保育事業(体調不良児対応型)を開始するため、事業を追加する定款の変更を行いました。

NEWS 9 表彰していただきました!

令和3年度は、4名が神奈川県社会福祉協議会会長表彰をいただきました。

表彰は本人やご家族、職員全員の誇りであり励みになります。受賞者4名をお祝いするとともに、表彰してくださった社会福祉協議会様に厚く御礼申し上げます。

渡辺 恵	(みどり園;主任支援員)
鳥居 国治	(みどり園;支援員)
中岡 匠	(清川ホーム;支援員)
小澤 友幸	(清川ホーム;調理員)

清川ホームでは、毎月、防災訓練を実施しています。訓練内容は、偶数月を大型地震想定訓練とし、6月、10月には、まかないかまどの「まかない君」を使つての炊き出し訓練や、雨水や川の水等をろ過する浄水器の使用訓練等を行っています。奇数月が火災想定避難訓練となっており、利用者様の誘導や、消火器、消火栓を使用した消火訓練、実際に消防署に通報する通報訓練を行っています。

避難訓練については、利用者様に事前に訓練を行うこととお知らせし、訓練時は職員の指示に従って行動していただいています。定期的な訓練の積み重ねにより、利用者様は一階のホールをめざして避難し、その後園庭へと避難できる習慣が身についており、清川ホームの長年の訓練で培った賜物だと思います。

また清川は冬になると稀に大雪が積もることがあり、その際には職員で雪かきを行いますが、そこで活躍するのが除雪機です。ここ数年は積雪に悩まされることはありませんでしたが、毎年11月に入ると積雪に

備え、除雪機の操作訓練を職員全員で3月まで毎月実施しています。

昨今、震災については南海トラフ沿いの大規模地震の発生の可能性が今後30年以内に70%から80%であり、切迫性の高い状態と言われており、実際に起こりうる地震の避難に対しての意識を高める必要があると報じられています。また今年2月には神奈川災害派遣福祉チーム（神奈川DWAT）に登録することとなり、登録した際に受講した研修を通じて学んだことは、東日本大震災時に福祉施設が福祉避難所となったことです。万が一にも災害が発生した場合、清川ホームが支援物資や避難者の集積場所となり、福祉避難所となり得ることも想定する必要があると考えさせられました。

福祉避難所になると、施設職員が避難されてきた人々の対応に追われてしまうことも想定され、現在行われている炊き出し訓練や防災備品用具を見直すこと、さらには災害時のシミュレーション等を行うおくことも必要になってくると考えられます。災害は起こって欲しくありませんが、防災、災害について考えていかなければいけない立場になった時、「災害時は、みんなで助け合い」を念頭に、新たに災害について考え訓練に反映できるようにと思いました。

神奈川県災害派遣福祉チーム（神奈川DWAT）の役割は、「災害時において、高齢者、障がい者、乳幼児その他の特に配慮を要する者」＝「要配慮者」を支援するチームであり、避難所での災害関連死が相次いだ東日本大震災の教訓を踏まえて発足したチームです。（清川ホーム 主査 若菜 恵一）



ピックアップ2

☐ わらべ歌を取り入れた保育（伊勢原ふたば保育園）☐

わらべ歌とはどんな歌を言うの?と感ずるかもしれませんが、実は身近で歌われていたり、1度は耳にしたことのある昔からずっと歌い継がれている伝承童謡のことを「わらべうた」と言います。メロディーがドレミソラの5音で成り立つため子どもにとっては無理なく自然に歌えたり、歌と遊びが一体となっているので保育の現場でも取り入れやすくなっています。



近年このわらべ歌を保育に取り入れる事や継続して実践していくことで(聞く力)(集中力)(情緒の安定)(人とのコミュニケーション)などで効果が出るが見直されています。集団遊びができる幼児は「花いちもんめ」や「かごめかごめ」のあそびにふれて歌を唄い、ルールを学びながら友だちと遊ぶ事を楽しんでいます。

触れ合いが大切な乳児は「いっぽんばし」「げんこつやまのたぬきさん」などの遊びで体に触れてもらうことを喜び、愛着関係が築かれたりジャンケン遊びを覚えたりします。日本語の持つリズムミカルな響きは保育士に歌ってもらうことでスキンシップと同じ心の安定が得られると言われています。

わらべ歌を唄うことで次に何をしてくれるのか興味を持ち、友だちや保育士と繰り返して楽しむ中で自然に見る力、聞く力が育っていきます。令和2年度伊勢原市保育内容研究会ではこのわらべ歌をテーマにして、伊勢原ふたば保育園の中でも、乳児、幼児に合ったものを取り入れた遊びを研究してきました。今回の事を機に継続して保育に取り入れていけたらと思います。

余談ですが、研究していくうちに、私が小さい頃苦手だったお絵描きが好きになったきっかけの“えかきうた”がわらべ歌と知り懐かしくなったので紹介したいと思います。(伊勢原ふたば保育園 保育士 比嘉 良子)



(えかきうた) ぼうが いっぽん

ピックアップ3

☐ 食材の旬について（調理・栄養担当者会議）☐

旬とは、特定の食材について、他の時期より新鮮に食べられる時期です。現在では、ハウス栽培や養殖でスーパーなどに一年中流通している食材も多いですが、旬に食べるということには、良いことがあります。

【美味しくて栄養価が高い】

旬の食材は、旨味が濃くて栄養成分が豊富です。例えば冬が旬のほうれん草は、低温で太陽の光も弱い環境の中で、葉を広げながら光合成を行い、糖度やビタミンを蓄えていきます。こうして育った冬採れのほうれん草は、夏採れのものより約3倍のビタミンCを含有しています。また、魚介も身に脂をたくさん蓄える時期などが旬になります。例えばマサバは夏に味が落ちる一方で、旬の秋になると非常に美味しくなります。これは夏に産卵でやせ細った体が秋に入って回復し、丸々と脂がのって旨味が増えるためと言われています。

【その時期の体が喜ぶ】

旬の食材には、その時期の体が必要とする成分や、嬉しい効果を持っているものがたくさんあります。例えば、夏が旬のトマトやキュウリ、すいかなどは水分が多く含まれていて、これらの野菜やフルーツを食べることで、汗をかいて失ってしまった水分の補給に役立ちます。また、秋から冬にかけて旬を迎えるものが多い根菜類は体を温めてくれる作用があり、煮物などのあたたかい料理で冷えた体をポカポカにしてくれます。

【季節を楽しめる】

季節ごとに旬の食材が移り変わるの、四季のある日本ならではの楽しみだと思います。忙しい毎日を送っていると、どうしても季節の変化に気付きにくくなってしまいうものですが、そんな時こそ旬の食材を食べて季節を楽しみたいものです。

みどり園でも、旬の食材を献立の中に多く取り入れて、利用者様に食事から季節を感じ楽しんで頂けるように努力しています。(みどり園 栄養士 宮内 章裕)

ピックアップ 4

超高齢社会に生きる（医療担当者会議）

医療分野の発展や、生活の変化などにより日本人の平均寿命は延び続けています。

日本は1970年に「高齢化社会」に突入し、1995年に高齢者人口が14%を超え、2010年には23%、2018年には28%となり、「高齢社会」から「超高齢社会」へと突入しました。今後も高齢化は進み、2025年には約30%、2060年には約40%に達すると見られています。

年齢を重ねるとともに避けられない身体機能低下や疾患があります。みどり園に入所されている方も同様で、加齢による様々な身体的変化が見られます。身体機能の変化や低下によって生活様式に変化が生じ、福祉用具が必要な場合がでてきます。

例えば車椅子や介護用ベッド、エアーマットやクッションなど、個々の状態によって必要なものは様々ですが、そういった場面に直面した時、在宅で生活されている方は介護保険サービスを使って様々な福祉用具を自己負担少なくレンタルすることが可能です。医療ケアが必要になった場合は訪問医療を利用することもできます。

ただ、現行の制度では、障害者施設に入所していると介護保険サービスは受けられません。介護保険サービスが利用できないことにより、高額な介護

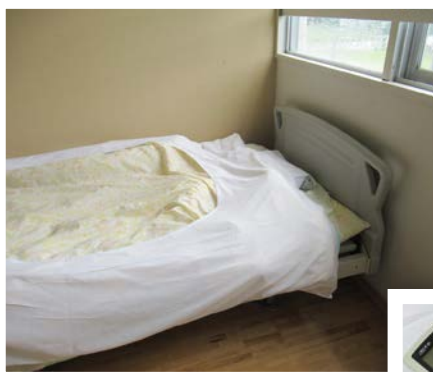


車椅子

用品や福祉用具等、必要なものは全て自費で賄わなければなりません。また医療ケアが必要になった時や医療ケアはないけれど訪問医療が必要になった時にも、みどり園に入所されていることで利用できないのが現状です。

みどり園では、できる限り利用者様の負担にならないよう最大限の努力をしていますが、どうしても高額なものや、その方だけが必要なものに関しては自費購入して頂くようになってしまいます。個々のライフステージに合った環境整備が不可欠であること、介護施設とは異なること、医療ケアの対応ができないこと等を考慮すると、今後の課題として、高齢人生を豊かに過ごして頂く為に必要なケア、介護サービスが受けられるよう施設移行の検討を前向きに行っていく必要があると考えています。

（みどり園 看護師 青塚 真知子）



電動介護用ベッド



ピックアップ 5

コロナ禍での新しい生活様式（つくし）

新型コロナウイルス感染者が減少しているとはいえ、収束したわけではない状況の中で、つくしでの日常も様変わりしています。

つくしの魅力の一つとして挙げられる給食提供は、平成26年4月から実施しており、利用者の皆さんからも安くて美味しいと好評をいただいています。メニューに関してもレパートリーが豊富で、利用者の皆さんが笑顔になれる楽しいひと時です。

新型コロナウイルス感染症が流行する前は、美味しい食事に舌鼓を打ちながら、利用者様・職員で会話を楽しみながらの会食が行えていました。新型コロナウイルス感染症が蔓延してからは、会話を控えつつ食事をするなど、皆で協力し合い感染予防に努めています。

食事環境も大幅に変わりました。以前は食堂にて20名ずつ食事を摂っていましたが、新型コロナウイルス感染症蔓延後は、食堂と2階会議室に分散して食事を召し上がっていただき、会議室での食事では対面での食事は控えるようにセッティングしています。

長らく新型コロナウイルス感染症により新しい生活様式も利用者様・職員共々だいが慣れてきましたが、しばらくはこの生活様式を続ける必要があると考えています。

利用者の皆さんが楽しみにされている行事についても、感染状況を見つつ必要に応じた工夫をしながら実施に向けた検討を重ねていきたいと思ひます。今後も新型コロナウイルスの感染予防対策を講じながら、利用者の皆さんが快適に過ごせるように新しい生活様式の構築を更に深めて行きたいと思ひます。

（つくし 施設長 平田 栄孝）



昨年のゴールデンウィークは、新型コロナウイルス感染予防のため不要不急の外出はやめようと家の片づけをしてみたら、昔に購入したオールディーズの音楽CDが出てきました。久しぶりにそのCDを聞いていると、ふとジミー・ジョーンズが歌い、全米で大ヒットしたという「グッド・タイミング」のメロディーが頭に浮かびました。

この曲は60年に発表された楽曲で、原題は「Good Timin'」。邦題は「ステキなタイミング」という曲で坂本九さんが日本語でカバーしています。歌詞を調べてみたら「この世で一番かんじんなのはステキなタイミング」というフレーズがありました。

確かに、何をするにも一番肝心なのはタイミングであろうと思います。日本には特有の四季があり、旬の食材、旬の花等々、その四季に沿った「旬」という考え方があります。旬の食材を中心とした食事は栄養価も高く美味しさも格別なものがありますし、季節ごとに咲く花はその時々心とを和ませてくれます。



ミツマタ



ハナネコノメソウ



シロヤシオ

効果を生み出しているかもしれません。

コロナ禍に限らず、何事においても常に見直しや工夫をしていく必要がありますが、いつ見直しや工夫をするか、いつ実行するか、そのタイミングを外さないことが重要だと思います。

（総務局長 矢作 政行）

美味しいものを食べるのも、きれいな花を見るのも、タイミングを外すと味気ないものになってしまうのではないのでしょうか。

春は桜の花見、秋は紅葉狩りといったように四季折々に楽しめる自然がありますが、その中でも近隣の山地や溪流沿いに咲く花で、3月～4月頃に咲く「ミツマタ」や「ハナネコノメソウ」、5～6月頃に咲く「シロヤシオ」、9月～10月頃に咲く「キッコウハグマ」などは、ハイカーにも

人気が高く、大勢が出かけていくそうです。私もこれらの花を知ってから、咲く時期を外さずに毎年のように見に行っては楽しんでいます。

日常生活でも、仕事でも、タイミングは重要です。物を購入する・捨てる、行動を起こす、人を褒める・注意する等々、タイミングを計って実行することが肝要であり、タイミングを外すとその効果は半減してしまいます。「いつやるか?今でしょ!」という流行語があるように、タイミングを常に意識して、ことにあたる必要があるのではないのでしょうか。

長引くコロナ禍によって、日常生活にも、仕事にも様々な制約が課されていて、以前と同じような生活、仕事ができない状況になっていますが、この制約に甘んじて何もしないか、あえてグッド・タイミングと捉えて工夫をするかで、その後の生活や仕事に大きく影響してくるものと思います。

法人内の各事業所では、コロナ禍によって制約が課された業務や行事を、見直しすることや工夫することによって従来と同じような効果を生み出しています。場合によっては従来以上の



コロナ禍でのハロウィンパーティー

パーソナルカラー診断

ワインレッドとかボルドーとか、有彩色の中では少し青みの暗い赤が私は好きです。そのきっかけは、高校入学の時に買ってもらったワインレッドのローファーで、天邪鬼な私は周りとは少し違う色に惹かれ、黒や茶のものと併用して3年間大事に履きました。

私が最近興味のあることのひとつに、パーソナルカラー、顔タイプ、骨格タイプの診断で自分の得意な色や形、テイストなどを知ることができるイメコンと言われるもので、ご存知の方もいらっしゃると思います。

パーソナルカラーは自分の顔をよく見せてくれる色で、最近よく耳にするイエベやブルベなど春夏秋冬に分けられた色のグループから自分の得意な四季のタイプがわかり、診断する方が持つ資格によって4、12、16タイプなどと分類方法は様々あるようです。これまで何度か診断をしてもらう機会があり、実際にドレープを当てて診てもらうと、自分でも驚くくらいに顔色、顔映りが変わるのがわかりました。

私の診断結果は、ブルーベースのウィンター。これが1stタイプで、どの診断でもこの結果は変わらずですが、2ndタイプが診断方法によって変わりました。4タイプの診断だと、オータムの中でも黄みのない暗い色を重視した方がいいという結果で、16タイプの診断だと2ndタイプはサマー、青みを重視した方がいいという結果でした。

服や小物など黒や白、グレーばかり選んでいた中で、気が付けばワインレッドが増えていたり、化粧品も好みの色だからと紫やローズ、ボルドーなど深い青みのある色が増えていたり、ウィンターに分類される色は何も知らない時から選ぶことが多くなっていました。無意識のうちに得意な色のひとつという感覚があったのか、ただの偶然なのか…。

自分に似合わない色の中でもカーキ色や黄色はこれまでも好んで選ぶことが多く、その中で少しでも得意な要素があるものを選ぶように考えようになりました。ただ、顔タイプでも似合う色の幅は変わることもあるようで、そこに骨格タイプも…と考えると、自分の印象を変えられる要素はたくさんあり、表面的な知識だけではよくわからなくなってきました。それでも軸を知っていれば、それを基準にして選ぶ幅が広がられますし、周囲の方や家族に“いいね”と言われるものを思い返すと、得意な要素が多かったと気が付くこともありました。知識も、自分の感覚も、周りからの意見も、どれも大切だなと思います。

私の場合、色に関しては好みと得意なものが重なりましたが、骨格タイプでは苦手なものが好みなので、好みを優先して選びます。結局、結果がわかって好みのもを貫くのにはこれからも変わらないかもしれません。

編集後記

コロナ禍の今、緑友会通信は年1回の発行に抑えています。業務量を減らし非常事態対応に集中することとコロナ禍による収入減に対応するためです。量が減った分、中身を濃くする。そのためにはどうするか。矢作編集責任者の悩みを代弁しました。

これまで緑友会通信は3回のモデルチェンジがあり、次号からは矢作局長から小林総務部長に編集責任者が変わります。引き続きご笑覧いただければ幸いです。

理事長：岩崎尊之

「福祉の輪広げたい」第35号

発行：2022年1月

発行責任者：岩崎尊之（理事長）

編集責任者：矢作政行（総務局長）

事務局：社会福祉法人緑友会 総務部
伊勢原市伊勢原 3-6-7

Tel 0463-73-7221

印刷：カサハラ印刷株式会社

伊勢原市白根 475-1

社会福祉法人緑友会 各施設のご案内

社会福祉法人緑友会 本部・総務部

伊勢原市伊勢原3-6-7 Tel: 0463-73-7221

障害者支援施設 みどり園

伊勢原市栗窪605-1 Tel: 0463-93-4722

障害者支援施設 清川ホーム

愛甲郡清川村煤ヶ谷3293 Tel: 046-288-2911

認可保育所 伊勢原ふたば保育園

伊勢原市高森1391-3 Tel: 0463-92-6226

認可保育所 本厚木ふたば保育園

厚木市田村町7-3-2F Tel: 046-295-2525

知的障害者グループホーム げんき家

伊勢原市桜台2-16-25-201 Tel: 0463-91-7865

就労継続支援B型事業所 つくし

伊勢原市伊勢原3-6-7 Tel: 0463-92-7900

相談支援事業 つくし相談室

伊勢原市伊勢原3-5-7 Tel: 0463-73-6027

就労継続支援B型事業所 アトリエ ヴェルデ

伊勢原市高森1422-7 Tel: 0463-79-8181